

---

# 八幡浜市の地域経済循環分析

2018年2月14日

---

# 目次

---

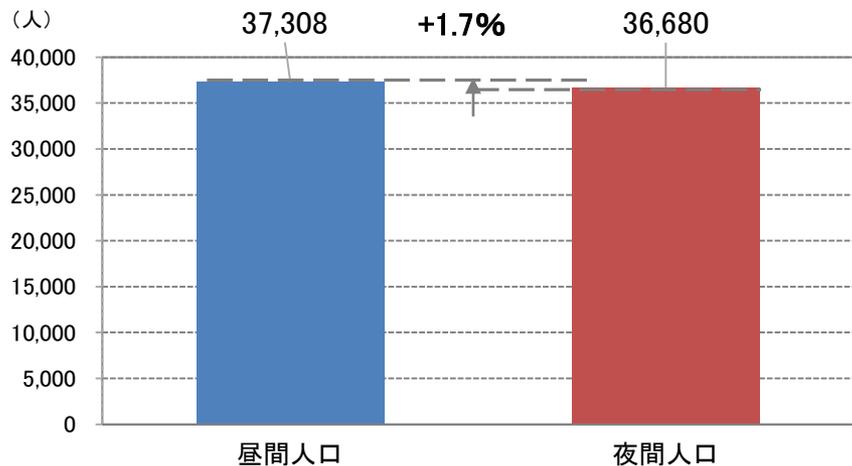
1. 八幡浜市の地域経済循環分析の概要
2. 八幡浜市の課題と取組の方向性

---

# 1.八幡浜市の地域経済循環分析の概要

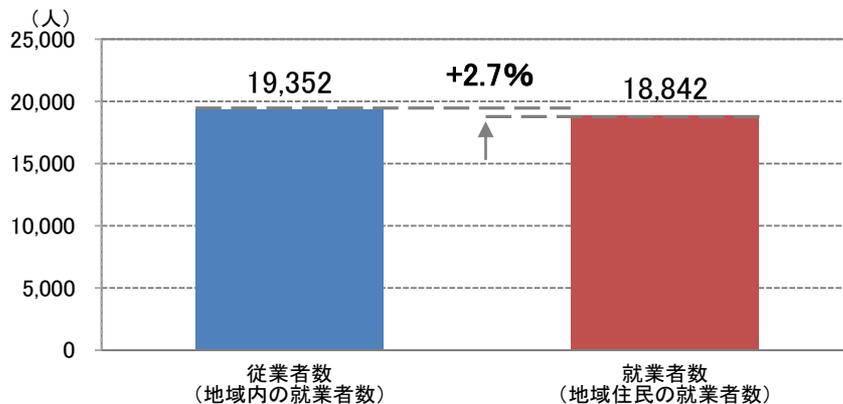
# 地域の概要（八幡浜市）

① 夜間人口・昼間人口（2013） グラフ(1)



出所：総務省「平成22年国勢調査」、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」より作成

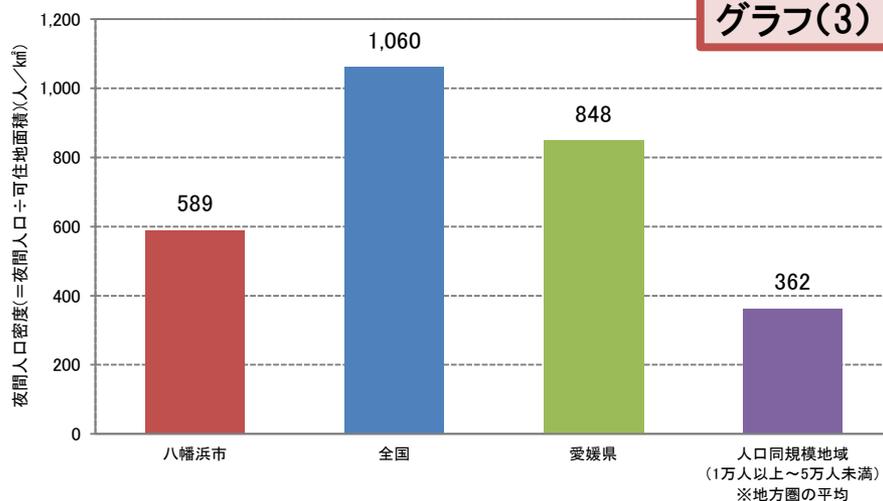
② 就業者数と従業者数（2013） グラフ(2)



注）従業者数は、従業地における就業者の数（域外からの通勤者を含む）である。  
就業者数は、常住地の住民の就業者の数（域外への通勤者を含む）である。

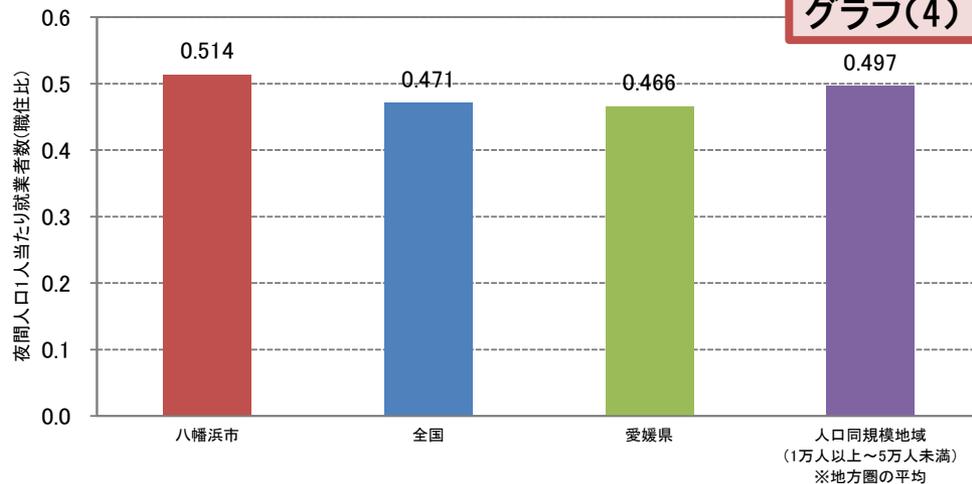
出所：総務省「平成22年国勢調査」、「平成21年・平成26年経済センサス-基礎調査」より作成

③ 夜間人口密度（＝夜間人口／可住地面積） グラフ(3)



出所：総務省「平成22年国勢調査」、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」、「統計でみる市区町村のすがた2012」より作成

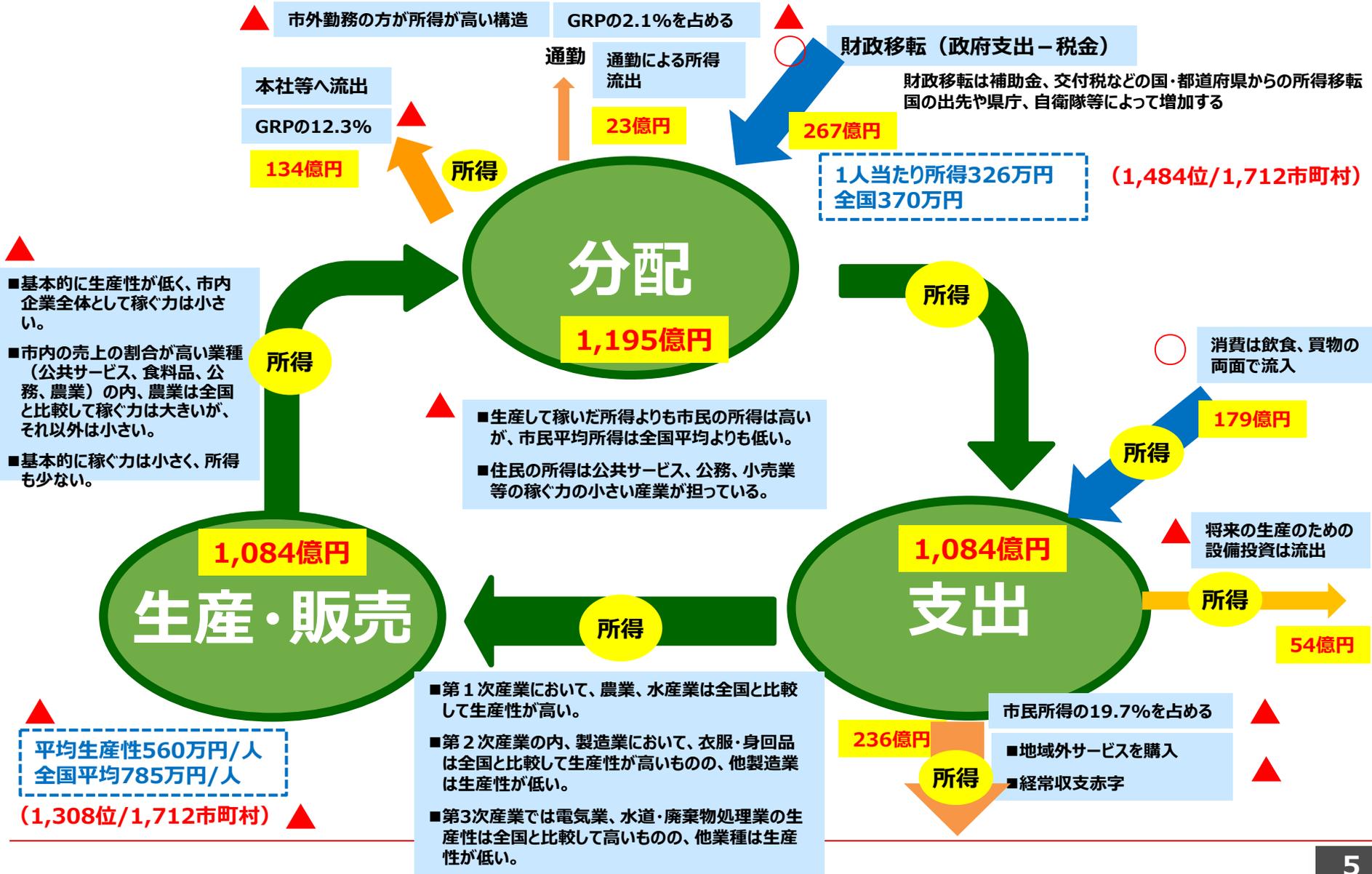
④ 夜間人口1人当たり就業者数（職住比） グラフ(4)



出所：総務省「平成22年国勢調査」、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」等より作成

# 地域経済循環分析：全体の構造

地域の稼ぐ力は弱く、住民所得は低い縮小均衡型の構造である

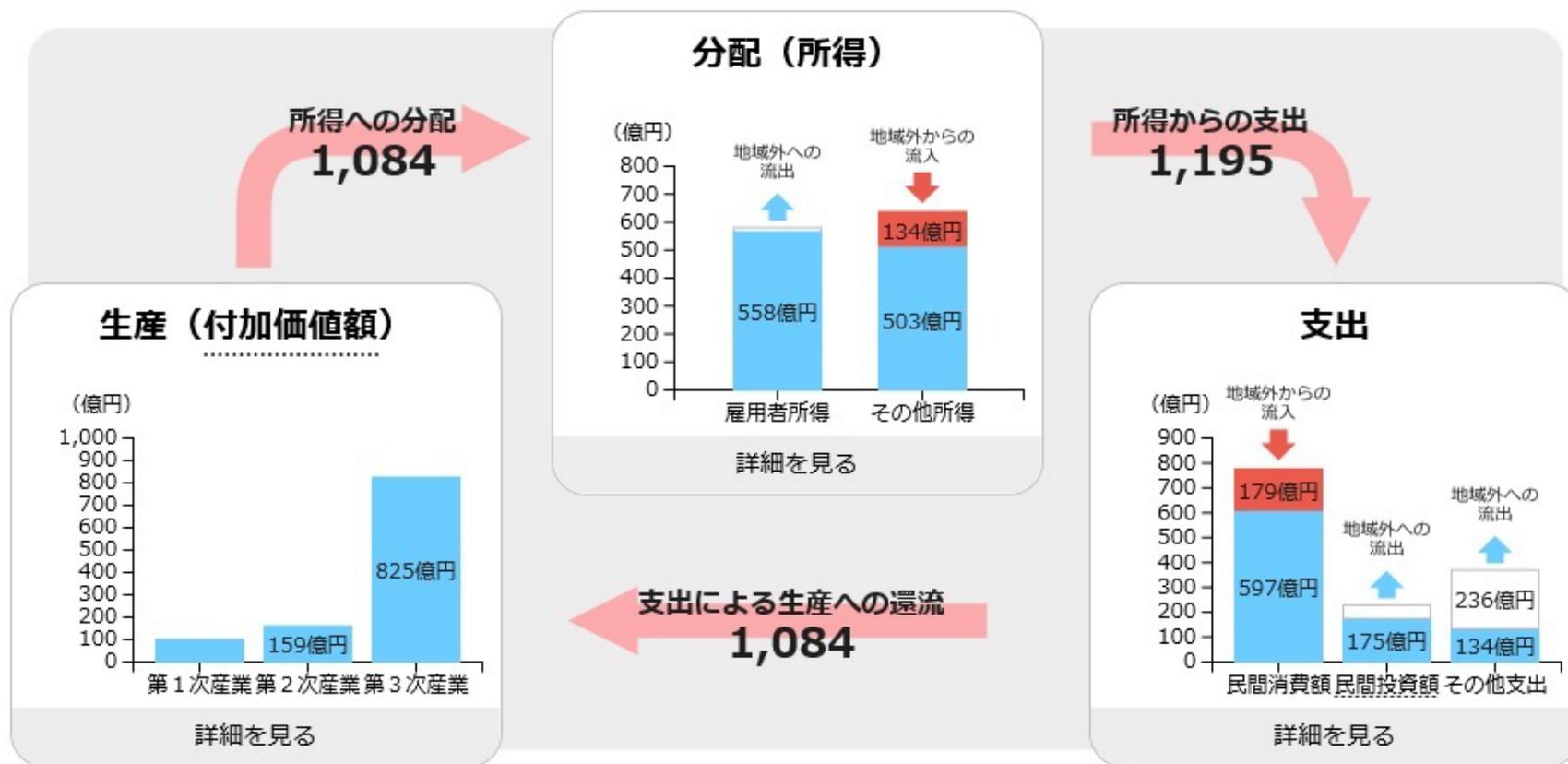


# 参考) RESAS地域経済循環分析図

地域経済循環率  
**90.7%**

## 地域経済循環図 2013年

指定地域：愛媛県八幡浜市



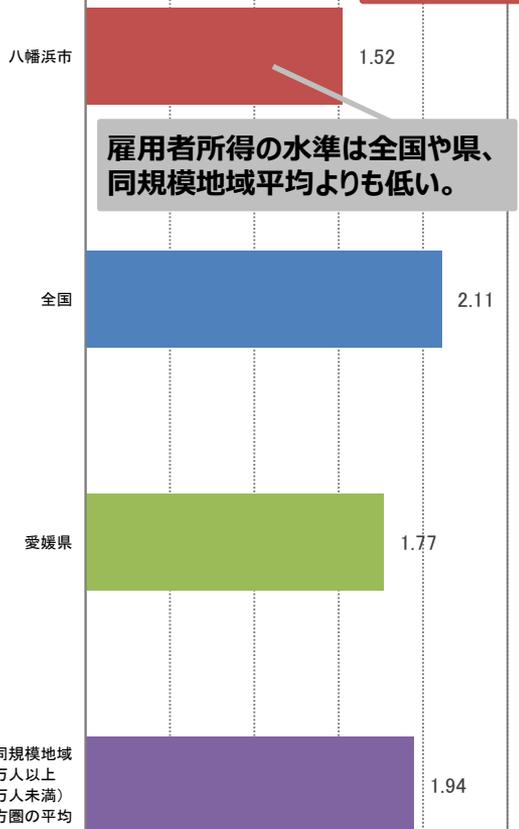
# 住民1人当たり所得（八幡浜市）

## ①夜間人口1人当たり雇用者所得

夜間人口1人当たり雇用者所得(百万円/人)

0.0 0.5 1.0 1.5 2.0 2.5

グラフ(5)

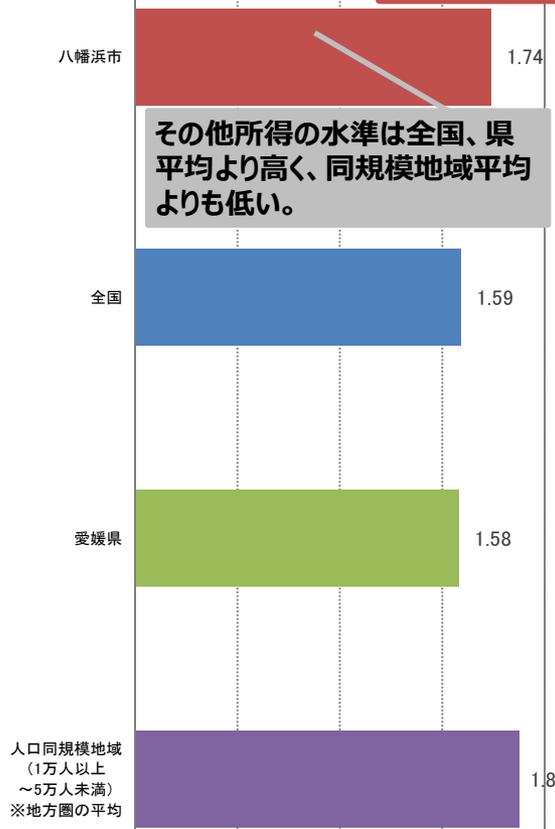


## ②夜間人口1人当たりその他所得

夜間人口1人当たりその他所得(百万円/人)

0.0 0.5 1.0 1.5 2.0

グラフ(6)

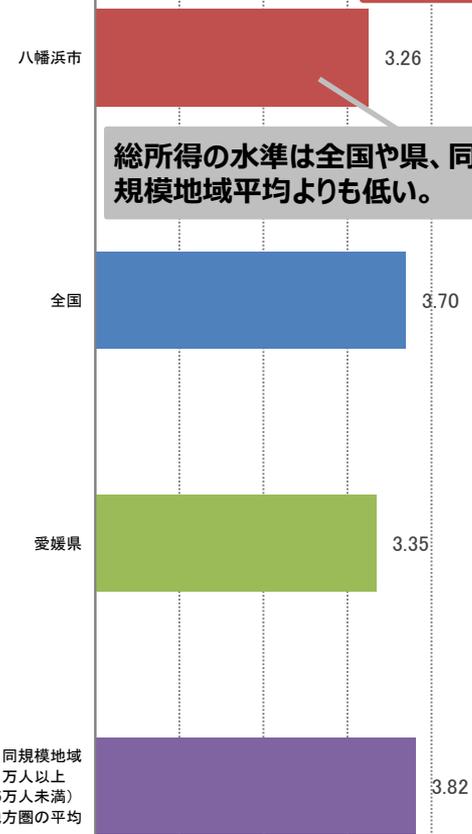


## ③夜間人口1人当たり所得 (=雇用者所得+その他所得)

夜間人口1人当たり所得(百万円/人)

0.0 1.0 2.0 3.0 4.0 5.0

グラフ(7)



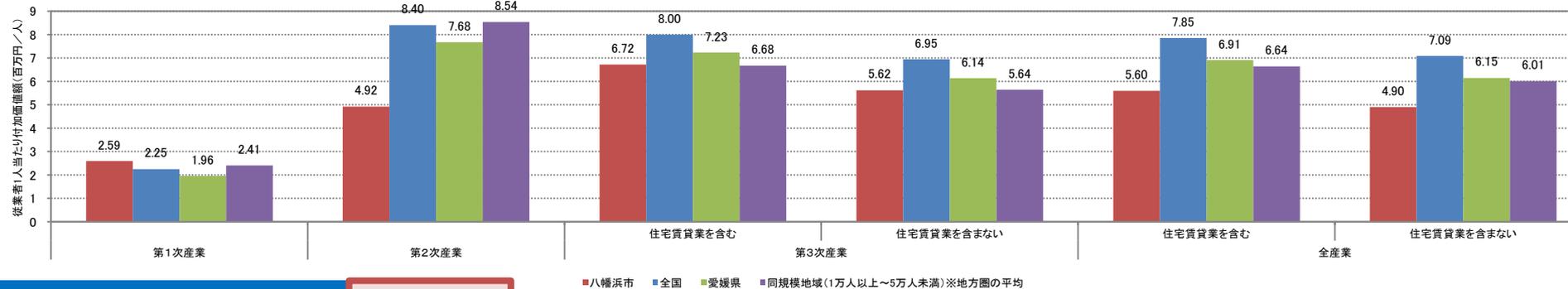
注1) 雇用者所得は、地域内の生産活動によって生み出された付加価値のうち、労働を提供した雇用者への分配額である。

注2) その他所得とは雇用者所得以外の所得であり、財産所得、企業所得、財政移転(交付税、補助金等)等が含まれる。

# 地域の稼ぐ力 (八幡浜市)

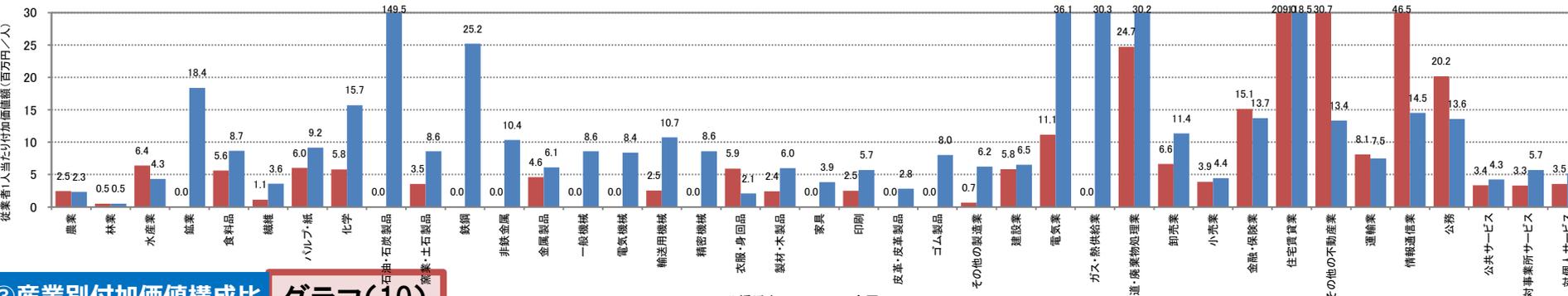
## ① 産業別労働生産性

### グラフ(8)



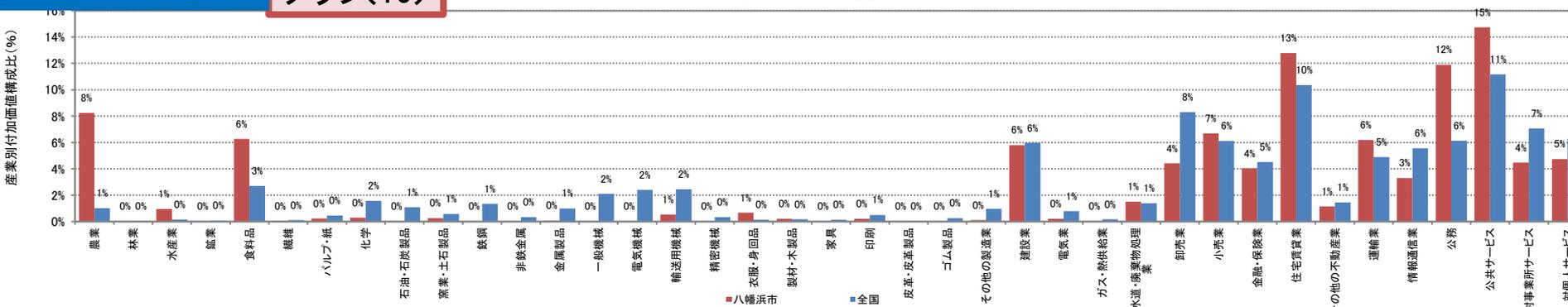
## ② 産業別労働生産性 (39産業)

### グラフ(9)



## ③ 産業別付加価値構成比

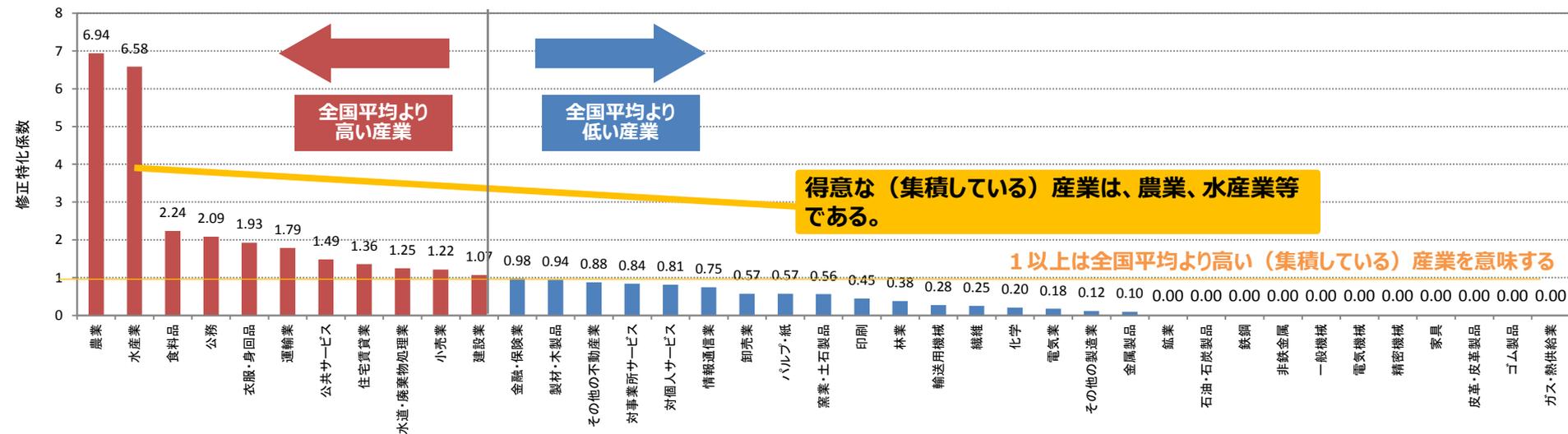
### グラフ(10)



# 地域の得意な産業と域外から稼ぐ産業（八幡浜市）

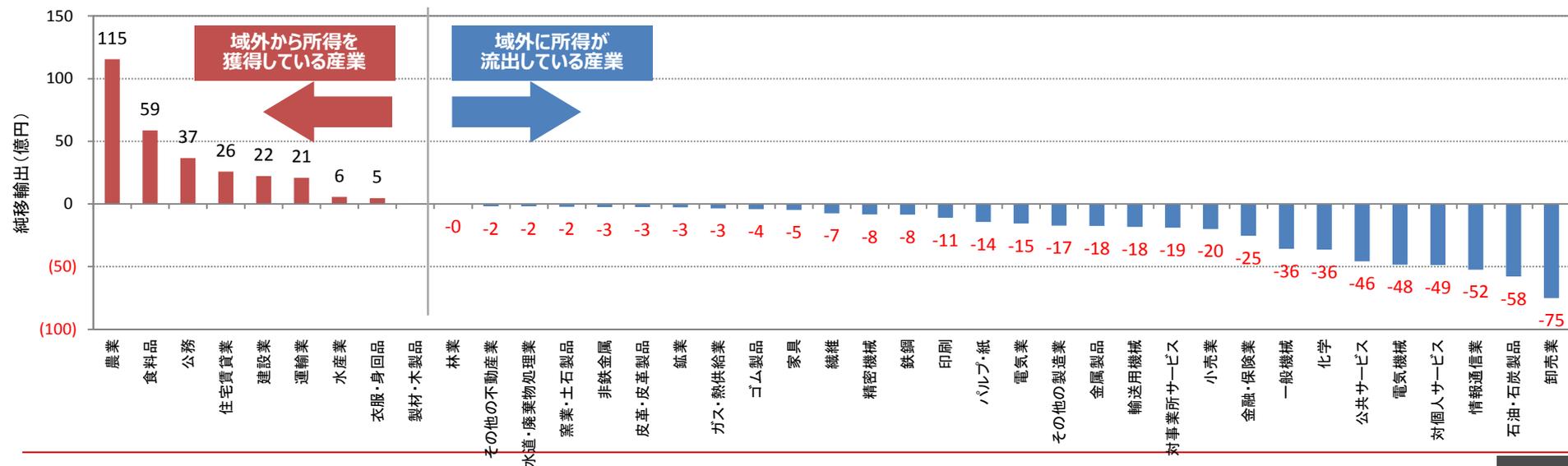
①得意な産業：修正特化係数（生産額ベース）

グラフ(11)



②外から稼ぐ産業：産業別の純移輸出額

グラフ(12)

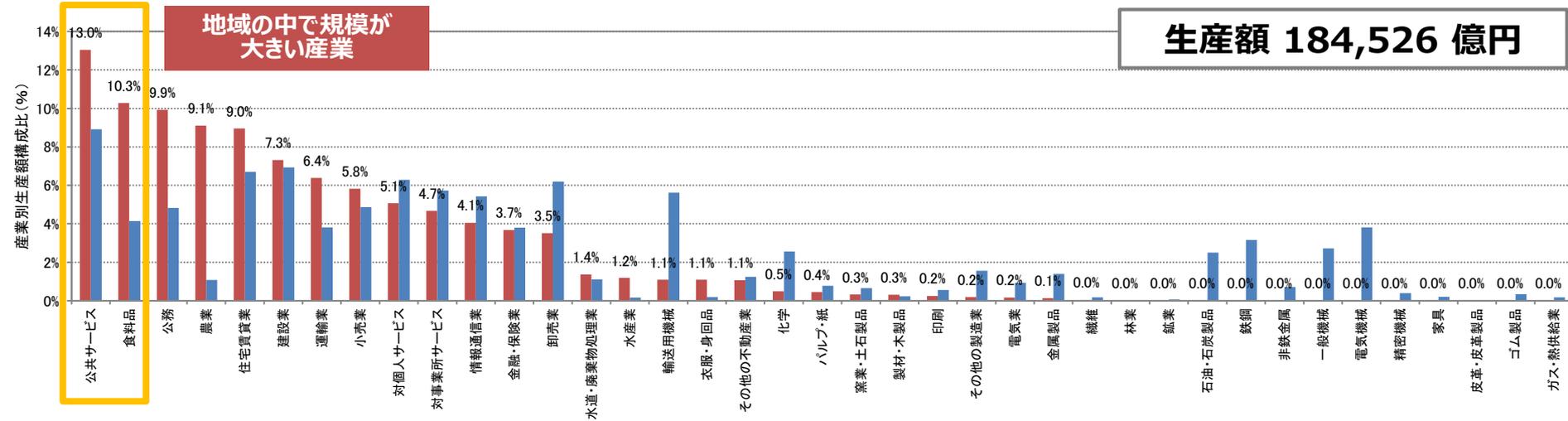




# 産業別の生産額・雇用者所得（八幡浜市）

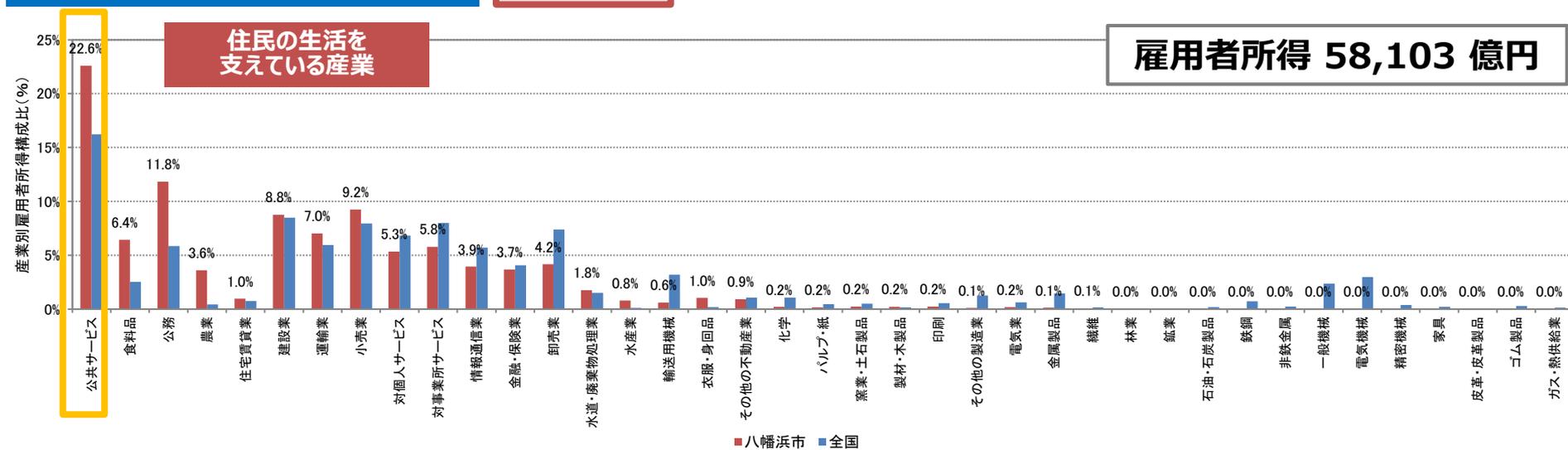
## ① 産業別生産額（売上）

### グラフ(14)



## ② 産業別雇用者所得（人件費）

### グラフ(15)

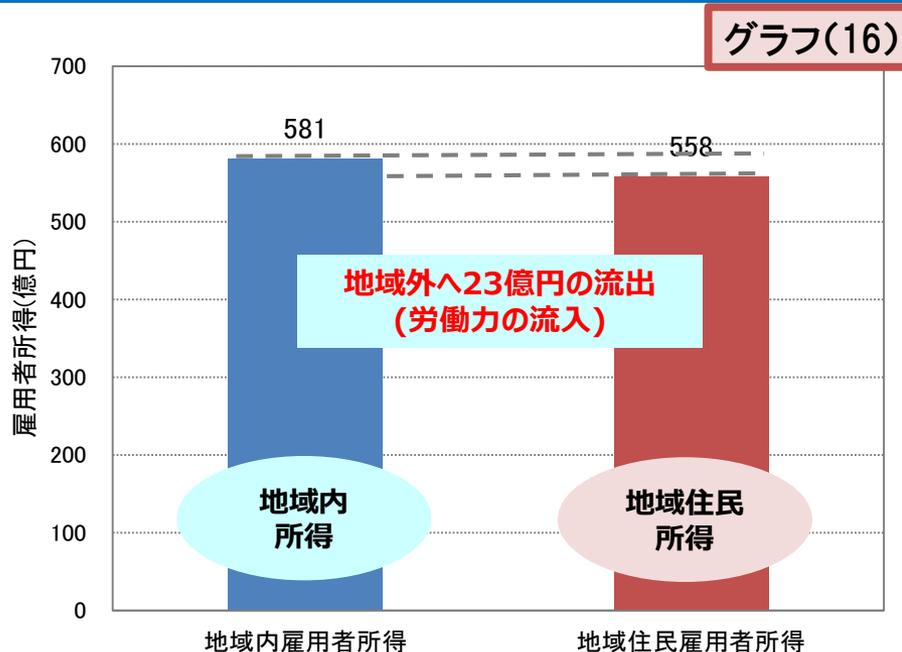


# 地域住民の分配所得（八幡浜市）

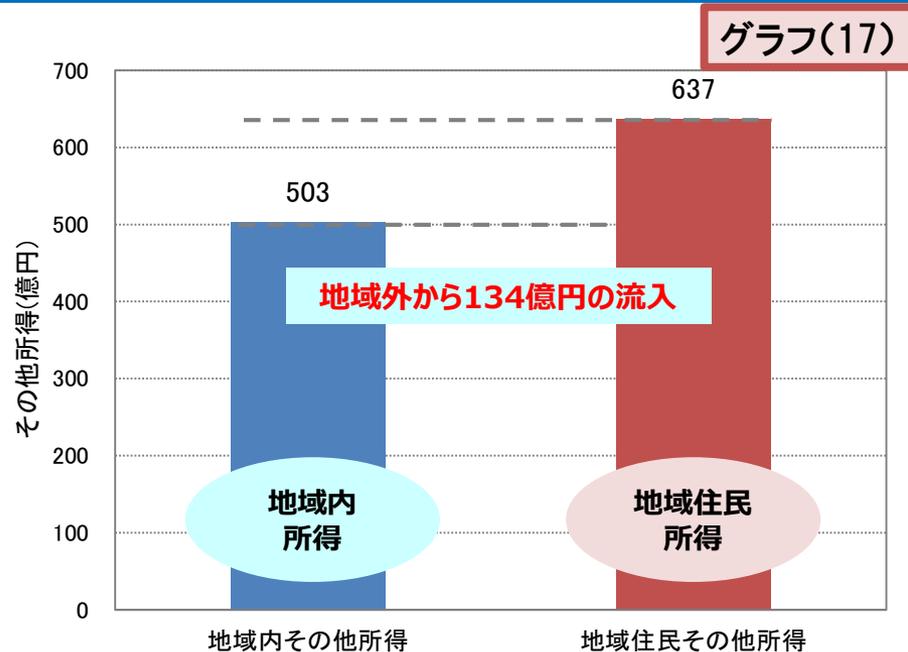
- ✓ 地域内で企業が生産・販売で得た雇用者所得の方が、地域住民が得る所得よりも23億円多く、地域外へ雇用者所得が流出している。
- ✓ すなわち、労働力が流入することにより、雇用者所得は若干流出している。

- ✓ 地域内で企業が生産・販売で得たその他所得(内部留保、配当等)の方が、地域住民が得るその他所得よりも134億円少なく、地域内へその他所得が流入している。
- ✓ その他所得の134億円（GRPに対し12.3%）が、本社等へ吸い上げられている。

## ① 地域内雇用者所得と地域住民の雇用者所得の比較



## ② 地域内その他所得と地域住民その他所得の比較



注) その他所得とは雇用者所得以外の所得であり、財産所得、企業所得、財政移転(交付税、補助金等)等が含まれる。

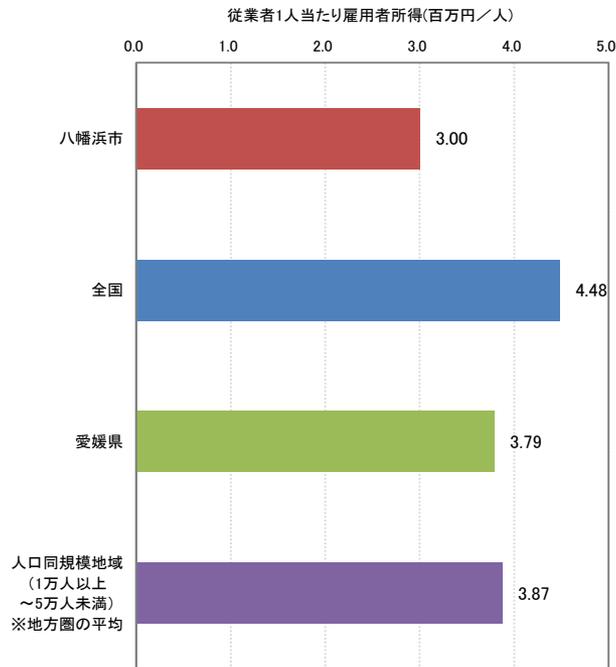
# 1人当たりの雇用者所得の水準（八幡浜市）

- ✓ 従業者1人当たりの雇用者所得は全国、県、人口同規模地域と比較して低い水準である。
- ✓ 特に、全国と比較すると148万円も小さく、市内で勤務している従業者の雇用者所得が小さいことがわかる。

- ✓ 就業者1人当たりの雇用者所得は全国、県、人口同規模地域と比較して低い水準である。
- ✓ また、従業者1人当たりと比較して、5万円程度小さく、市外の企業・事業所に勤務している市民の方が所得が低い

① 従業者1人当たり雇用者所得（従業地ベース）

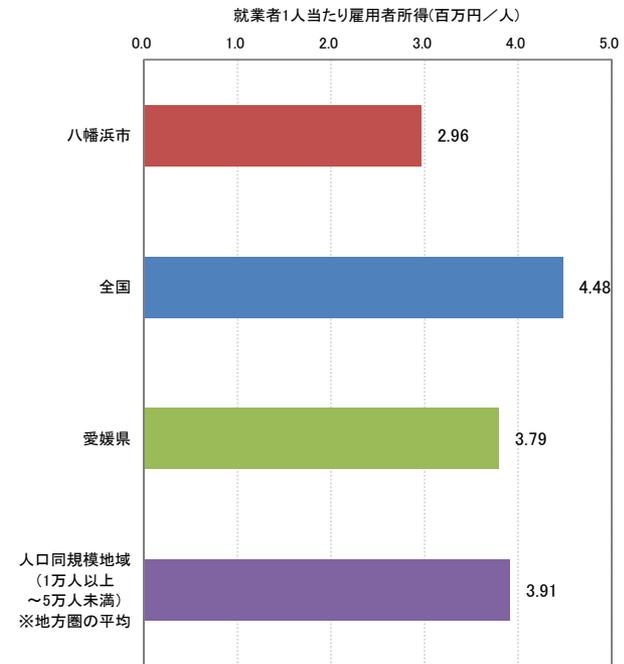
グラフ(18)



注) 雇用者所得は、地域内（域外からの通勤者を含む）の雇用者所得を表す。

② 就業者1人当たり雇用者所得（居住地ベース）

グラフ(19)



注) 雇用者所得は、地域住民（域外への通勤者を含む）の雇用者所得を表す。

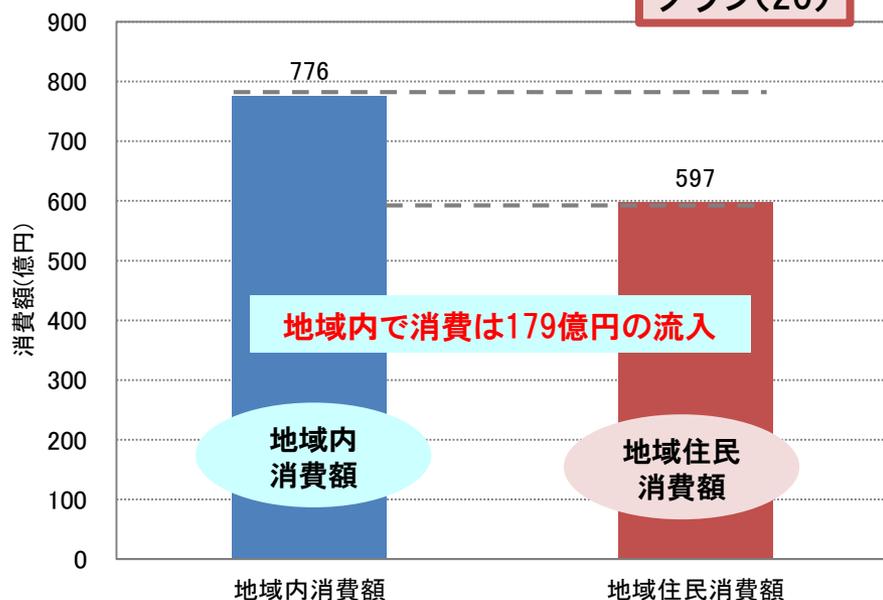
# 消費・投資の流入・流出（八幡浜市）

- ✓ 地域内で消費される額が、地域の住民が消費する額よりも179億円多く、消費が流入している。

- ✓ 地域内に投資される額が、地域内の企業が投資する額よりも54億円程度少なく、地域外に投資が流出している。

## ①消費の流入・流出

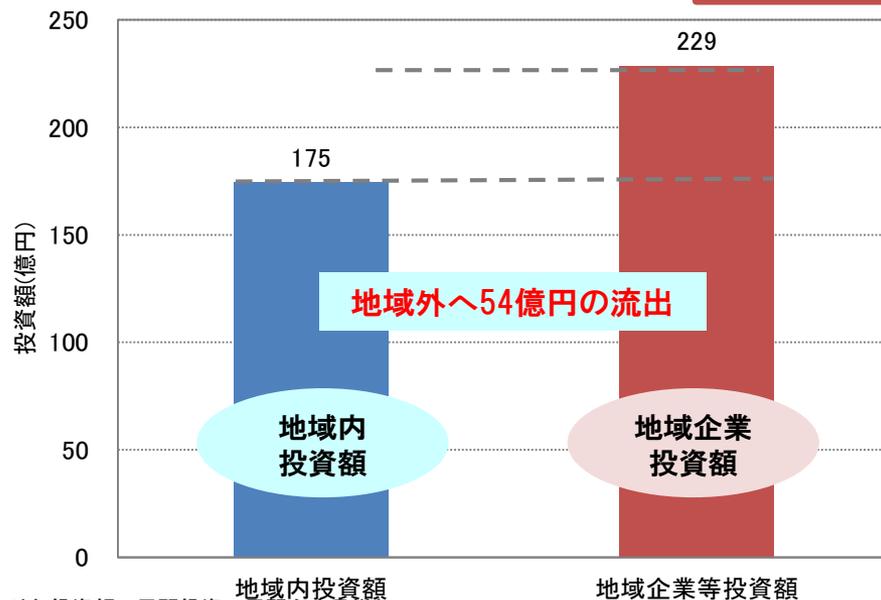
グラフ(20)



注) 地域内消費額は、地域内の民間消費(誰が消費したかは問わない)を表す。  
地域住民消費額は、地域住民の民間消費(どこで消費したかは問わない)を表す。

## ②投資の流入・流出

グラフ(21)



注) 投資額＝民間投資＋民間在庫品増加  
地域内投資額は、地域内の投資額(誰が投資したかは問わない)を表す。  
地域企業投資額は、地域内の企業・住民の投資額(どこに投資したかは問わない)を表す。  
投資額は年次による額の変動が大きい点に留意する必要がある。

---

## 2.八幡浜市の課題と取組の方向性

# 八幡浜市の長所

八幡浜市は、農業、水産業等が強く、労働生産性が全国と比較して高い。

## ① 八幡浜市は、農業が中心となって産業を牽引している。

- 八幡浜市は、全国と比較して労働生産性の高い農業、水産業が中心となって八幡浜市の産業を支えており、多くの所得を稼いでいる。

## ② 八幡浜市は、農業、食料品等が域外から所得を獲得している

- 八幡浜市は、全国と比較して労働生産性が高く外から稼ぐ力が強い産業として、農業がある。
- 労働生産性は低いが、食料品も外から稼ぐ力が強い産業であり、中心となる水産食料品製造業は、域内で原材料等も調達している、当市にとって重要な産業の一つである。

## ③ 道の駅・みなとオアシス「八幡浜みなと」、多数の飲食店があることで、買い物、飲食等の収入が流入している。

- 八幡浜市は、四国有数の水揚げを誇る魚市場を有し、隣接する道の駅・みなとオアシス「八幡浜みなと」内で新鮮な魚介類が安価に購入ができるため、市外からの買い物客が多いこと、また、当市は、原子力発電所が立地する伊方町の隣接市であり、年間多くの日数を占める定期検査等で当市に滞在する多くの従業員による飲食の需要が大きいこと等が、買い物や飲食等で民間消費が流入している要因となっていると推測される。

## ④ 八幡浜市の経常収支は赤字となっている。

- 八幡浜市のその他の支出は流出しており、経常収支は赤字となっている。
- これは、農業や建設業等、移輸出額が大きい産業もあるが、その他の産業はそれを上回る規模で域外から調達しているためである。

# 八幡浜市の短所

八幡浜市は労働生産性が上がりず、所得水準が低い。設備投資は流出している。

## ① 八幡浜市は1,083億円の付加価値額を計上しているが、稼ぐ力は弱い。

- 八幡浜市の付加価値額は1,083億円稼いでいるものの、全産業の1人当たり付加価値額（＝労働生産性）を見ると、全国、県、人口同規模地域と比較して低く、稼ぐ力は弱いと言える。
- これは、第2次産業が全国、県平均、同規模地域より圧倒的に低いためである。
- 八幡浜市は稼いだ所得に対して10.2%の所得流入があるが、その41.9%が財政移転（交付税・補助金等）と当市の地域経済は財政移転に依存している割合が高い。また、そこで得た所得が、域外への設備投資、域外からの調達（移輸出額＜移輸入額）等、支出面で漏れており、生産面への還流が少ない状況である。

## ② 八幡浜市の所得水準は低い。

- 最終的に住民が得る夜間人口1人当たり雇用者所得は、全国平均、県平均、人口同規模地域平均より低くなっている。また、1人当たりのその他所得は、全国平均、県平均より高く、人口同規模地域平均より低くなっている。
- 八幡浜市は中小企業（零細事業所）が多いため、労働生産性が低くなっていると考えられる。

## ③ 将来の生産のための設備投資は流出している

- 八幡浜市では54億円の設備投資が流出している。

# 八幡浜市の今後の取組の方向性

第一次産業の優位性を生かし、労働生産性の低い食品製造業の生産性向上のための施策を展開する。

## ① 6次産業化による生産性の向上

- 強みのある産業「農業」の中でも特に柑橘については、リーサスの産業構造マップで柑橘を中心とする産地の果樹販売額（2010年）を抽出すると、静岡県浜松市北区（産地/三ヶ日）に次ぐ生産額（717,230万円）であり、また、東京の大田市場で取引相場を決めるプライスリーダーとしての地位を固めているなど、全国トップクラスの生産額と品質を誇る、当市にとって優位な産業である。生果で勝負できるため、これまで6次産業化の動きは少なかったが、人口減少及び消費者の嗜好の変化等による消費の減少、また、後継者等担い手の減少といった現状から、6次産業化による新たな顧客の獲得、農家の所得向上が急務とされている。そのような中、今年度、八幡浜市が事業主体で農産物加工施設を整備しNPO法人により運営を開始しているが、域内で調達可能な原材料がトップブランドとして知名度があることを生かし、域外から所得を獲得できるような商品開発及び販路開拓のための研修及び専門人材の派遣等、今後の自立した運営に向けたスタートアップ支援を行う。

## ② 食料品製造業における新技術導入及び国内外の販路開拓による生産性向上

- 外から稼ぐ力が強い産業の一つに、水産加工品を中心とする食料品製造業がある。食料品製造業は、RESASの産業構造マップをみても、全産業の中で従業者数が圧倒的に多く、当市の雇用を吸収する重要な産業となっていることが分かる。しかし、中小企業（零細事業所）が多く、かつ労働集約型で生産性が極めて低い状況にあること、また、人口減少が進行している現状においては、雇用者の確保も困難な状況となってきていることから、今後、生産性を上げるロボット、ITなど新技術導入に対して支援することが考えられる。また、外から稼ぐ力の一層の強化のために、好漁場に面し、四国有数の水揚げを誇る高度衛生型の魚市場を有する強みを生かしたブランド強化や国内外の販路開拓に対する支援も強化する。
- 水産加工品については、機械化を図るのが困難な家族経営の零細事業者も多い。また、伝統的な手仕事での技術も存在することから、face to faceで温かみのある実演や体験等、一つの観光資源としての活用も可能性はある。